

飯田万民教会のクリスマス・チャリティーコンサート

20日に日本に到着したセレム古楽宣教団は、21日、飯田万民教会のクリスマス主日礼拝の時、特別賛美で栄光を輝かし、飯田の聖徒の皆さんと幸せに主日礼拝をささげました。

そして22日は、午前中「たまゆら」という老人福祉施設を訪れ、100人余りのお年寄りや施設関係者が集まって、本当に楽しい慰問公演をしました。福祉施設の代表の方が感謝の心を伝えられました。

午後4時、飯田市役所を訪問、暖かい歓迎を受けながら応接室で渡辺副市長と会いました。また、セレム古楽宣教団の訪問の知らせを聞いて、飯田市の教育長が直接応接室に来られて、副市長

と一緒に歓迎の挨拶をされました。韓国との活発な交流について、今後もこのような機会がもっと多くなればよいと言われ、飯田万民教会が飯田市の日韓文化交流及び社会福祉にさらに先立ってほしいと頼まれました。各新聞社から記者が来て、コンサートとセレム古楽宣教団の写真撮影と取材をしました。

23日のコンサートの日はとても良い天気、公演1時間前からたくさんの人々が会場に入り、公演直前には会場がぎっしり埋まりました。

飯田FMラジオでコンサートが始まる前から生中継してくれて、私が出演したりしました。そして飯田ケーブルテレビ

でも、コンサートを最初から録画してくれました。再放送をする予定です。私も記者のインタビューに答えたりなど、記者が取材する姿も目につきました。また、公演のニュースが各新聞社の大小の記事になりました。

感謝なことに、今回のコンサートはいつも増して飯田市民の反応が良く、飯田市をはじめ多くの公共機関の後援と支援のうちに行なわれたことを実感しました。そして、多くの方がセレム古楽宣教団の公演に感動して、「本当にすばらしかった」という感想を伝えてきています。また、「次の公演はいつなのか」という問い合わせもたくさんありました。何よりも感謝なのは、万民教会についての認識をもう一度飯田市民に確かに植えつけてくれたと

いうことです。

このように牧者の空間の中ですべての日程と行事を守って、豊かな実を結ばせてくださった牧者の神様に、感謝と栄光をお帰しします。

新年2009年は、もっと成長してリバイバルする飯田万民教会になりたいです。そして、新しい福祉宣教によって宣教の働きの幅を広げていきたいと思っています。

飯田万民教会担任 ユ・スギル牧師



Header banner with the title '万民中央ニュース' and a world map background. Text includes: 編集発行: 万民中央教会 • 発行人: イ・ジェロク • 編集者: ビン・グンソン • 〒152-848 韓国ソウル市九老区九老3洞 235-3番地 • 電話: 82-2-818-7042 • Fax: 82-2-818-7048 • www.manmin.org

民族福音化と世界宣教の使命を持つ万民中央教会
わたしたちは、聖書の教えと正統的キリスト教の信仰に立ち、新興宗教団体であるエホバの証人・モルモン教・統一教会とはいっさい関係ありません。



「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。……目を上げて、あたりを見よ。彼らはみな集まって、あなたのもとに来る。」(イザヤ60:1-4)

愛するマンミンの家族の皆さん、いつの間にか2008年が暮れかけています。一年間も、主にあって美しく豊かな実が結ぶるよう、ご自身で導かれ祝福された父なる神様に、すべての感謝と栄光をお帰しします。

特に今年は、イスラエル宣教において、正統ユダヤ人にまで聖潔の福音と神の力が根を下すようになり、来年7月に降にイスラエルで大規模な連合聖会が開催できる踏み台を備えてくださいました。また、全世界8000余りの支教会とともに、聖潔の福音ですべての国々の民を目覚めさせ、終わりの時に世界を一つの教区にするビジョンを持つようになさいました。すべてが神様の恵みと愛であり、聖徒の皆さんの熱い祈りと声援があったので、できたことでした。それでは、待望の2009年を迎えて、神様が備えられた祝福とははたして何でしょうか？

二番目に、すべての名にまさる主の教会になることです。1982年に教会を開拓した時から、神様は世界宣教と大聖殿建築の夢を下され、神様の方法で実現できるように、ご自身で私達を練ってこられました。そのたびに、ただ喜びと感謝で勝利した結果、どこの誰も否認できない神の力が現れる教会に成長するという祝福を受けました。これからはく

神様が備えられた祝福を受けるのにふさわしい器を整えているところです。エジプトから出て来たイスラエルの民が、荒野の生活をしながら指導者モーセを通して神様のみわざを体験し、信仰のある世代に成長したように、カナン聖殿建築のために先に立つ働き人と全聖徒が牧者の教えに従って、信仰で一つにならなければなりません。このように、神様がカナン聖殿建築を控えてカナン聖殿を建築するようにされたのは、それほど理由があります。どんな環境と条件でも、尊い祝福を望んで、ただ喜びと感謝で新しいエルサレムに向かう力強い一歩を踏み出すようにさせるためです。したがって、神様の愛を悟って、聖殿建築

愛する聖徒の皆さん、新年は、水が海をおおおうように神の力で聖潔の福音が全世界をおおって、以前とは比べられない大きくて驚くべき神の力が牧者を通して現われ、すべての国々の民の上に繰り広げられるでしょう。したがって、これまで信仰で祈って行なったすべてを豊かな実として刈り取るために、聖められることはもちろん、さらに火のように祈って、神様が備えられた祝福を完全に受けられよう、主の御名によって祈ります。

Footer section containing contact information for three entities: Manmin Central Church (Tel: 82-2-818-7042), Manmin TV (Tel: 82-2-824-7107), and WCDN (Tel: 82-2-818-7039). It also includes a small photo of a church building and the text '日本各支教会(4連絡先参照)'.

A detailed directory of church branches across Japan. It lists the name of the church, the pastor's name, and contact information (address, phone, fax, email, and website) for various locations including Nagano, Osaka, Tokyo, and other regions.



堂会長イ・ジェロク牧師

今回は、信仰の最も低い段階である信仰の一段階と、信仰の一段階の人々が入る天国の場所、パラダイスについて伝えます。

1. 最も少ない信仰の量りであり、救われるための信仰

信仰の量りを五段階に分けると、そのうち最も少ないのが信仰の一段階です。信仰の一段階は「救われるための信仰」です。「聖霊を受けるための信仰」であり、(ヨハネの手紙第一2:12)のみことばに照らせば「子どもたちの信仰」に当たる段階です。

「使徒の働き19:2」で、使徒パウロが幾人かの弟子に「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ねます。弟子たちは、神様を信じてバプテスマのヨハネのバプテスマも受けたけれど、聖霊は受けていませんでした。そこで、使徒パウロがイエス・キリストを伝えて按手すると、直ちに聖霊が臨み、異言と預言などのさまざまな御霊の賜物が現れました。

皆さんは聖霊を受けられたのでしょうか？ 聖霊を受けてこそ、神の子どもになれます。聖霊は、父、子、聖霊の三位一体の神様のおひとりです。私たちが福音を聞いて主イエスを受け入れれば、神様が聖霊を賜物として下さいます。

聖霊を受けるためには、まずイエス・キリストについての福音を聞かなければなりません。(ローマ人への手紙10:17)に「このように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」とあるとおり、イエス・キリストがどんな方であるのか、なぜ私たちの救い主であるのかを聞いて知ってこそ、信じられます。

アダムが罪を犯してから、すべての人類は原罪を持って生まれるようになりました。また、一生の間罪を犯しながら、罪の支配者である悪魔に従って生きていきます。このように、すべての人は原罪と自ら犯した罪を持った罪人なので、地獄に行かなければなりません。自分なりに正しく生きていける人々もいますが、(ローマ人への手紙3:10)に「それは、次のように書いてあるとおりです。『義人はいない。ひとりもない。』」とあるとおり、真理に照らしてみれば、明らかにみな罪人なのです。

(ルカ福音書23章)には、イエス様が十字架につけられているとき、一緒に十字架につけられていて、死ぬ直前にイエス様を主と受け入れて、救われた強盗が出て来ます。このようにかろうじて救われた人々ももちろんパラダイスです。もしこの強盗が、救われた後にずっと生きて信仰生活をして、罪を捨てて心の割れをしながら神の国のために忠実に働いたとすれば、一段階の信仰でなく二段階、三段階の信仰に育ち、もっと素晴らしい天国に入ることもできたでしょう。

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分けてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」(ローマ12:3)

信仰の量り(5)

「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分けてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」(ローマ12:3)

2. 信仰の一段階の人が入るパラダイス

パラダイスは信仰の一段階の人が入る天国であり、天国で最も低い場所ですが、この地上と比べられないほど幸せで、美しく、平和な所です。皆さんの想像力をすべて働かせて、最も美しく快適で、幸せな場所を思い描いてみてください。

空は澄んで青く、白い雲が絵のように浮かんでいます。きれいな砂がまぶしく輝く浜辺に、海は澄んで、水の中がみな見えています。さまざまな色の魚が珊瑚礁の間で泳いでいます。美しい樹木と花があり、甘い香りが四方に広がって、芝が果てなく広がっています。寒くも暑くもない快適な天気です。この地上でも、このように美しくして平安な所を見れば、神様を信じない人々も「まるで天国のようだ」と言ったりします。

しかし、いくら美しい所でも、パラダイスは比較になりません。花びら一枚、草の葉一枚がこの地上のものとは全く違って、鳥の羽も、その色とやわらかさと輝きはうっとりするほどです。ですから、パラダイスに行けば、まるで夢を見ているかのように美しい景色の中で「私のような人が、どうしてこのような恵みを受けるようになったのか」と言いながら、神様の愛に感激するしかないのです。

神様の御座から出たいのちの水が、新しいエルサレムと三天層、二天層、一天層をあまねく回り、パラダイスまで流れて来ます。いのちの水の川の両岸にはいのちの木があり、十二種の実が毎月なります。芝生によく整備された道が敷かれ、美しく飾られた多くの庭園があり、鳥のさえずりが音楽のように聞こえて、花々が満開で美しい香りを放ち、木になっている果物も思いきり食べられます。悲しみ、苦しみ、病気や死もないし、害を加える動物もいないし、災いもありません。

それでは、皆さんはこのようなパラダイスで永遠に生きたいと望まれるでしょうか？ もちろんパラダイスは良い所ですが、もっと素晴らしい天国を攻めて行かなければなりません。いくらパラダイスが良くても、一天層で受けられる幸せとはあまりにも大きい差があり、それより上の段階の天国とはもっと大きい違いが生じます。たとえば、純金と各種の宝石で華麗に建てられた宮殿のような家や、王子と王女のように栄える

冠をかぶって華麗な服を着た姿、美しい髪が育つように、こまめに神のみことばを聞いて、学んで、従い、行ないによって心をきよくしなければなりません。また、伝道して、奉仕して、祈って、神の国のために忠実に働くなど、もっと素晴らしい天国を慕って、熱心に攻めて行かなければならないのです。

冠をかぶって華麗な服を着た姿、美しい髪が育つように、こまめに神のみことばを聞いて、学んで、従い、行ないによって心をきよくしなければなりません。また、伝道して、奉仕して、祈って、神の国のために忠実に働くなど、もっと素晴らしい天国を慕って、熱心に攻めて行かなければならないのです。

私たちがこの地上で信仰生活しながら、信仰によって行なったこと、神様のために忠実に働き、蒔いたものが、天国で報いとして与えられます。ところが、救われる信仰である一段階の信仰では、天国に報いを積む余裕がなかったのです。

もちろん、家がないからといって、パラダイスに生きている人々は、芝生を散歩しているだけではありません。この地上にも、村の自治会館や福祉館のような所があって、いろいろな人が一緒に使います。そのように、パラダイスにも共同で使う場所があって、その中に集まることもできるし、安らかに休息を取ることできます。共同生活をして、天国には恵みがないので、互いに譲って相手を配慮するから、不便なことはないで幸せなだけです。

しかし、パラダイスがいくら幸せな所だとしても「私はパラダイスに入っただけでも十分だ」と言う方はおられませんように。肉体的に、この地上でさらに多くのものを取って楽しむとする欲は捨てるべきですが、神様の前で報いを受けようとする、霊的な欲はなければなりません。本当に信仰があるならば、当然もっと素晴らしい所を慕い求めなければなりません。霊的な欲を出すからといって、「もっと素晴らしい天国に入らなくては」と、言うだけではなく、実際にさらに素晴らしい天国に入れる資格を備えなければなりません。

天国を攻めて行くために、神のみことばを守りながら、心の悪を捨ててきよい人に変えながら、信仰の勇敢な戦いが始まれば、まさに信仰の二段階に入ります。これについては、次に調べることにします。

愛する聖徒の皆さん、世の中で最も大切なものが魂の救いです。漠然と「救われるだろう」と思っているだけでは、救いの確信と天国に対する望みを持って、いつも満たされた信仰生活をしなければなりません。また聖霊を受けていない方がいるならば、神様が約束された恵みの聖霊を切に求めて、必ず賜物として受けられますように。また、聖霊を受けた方は、熱心に信仰生活をして、信仰が日ごとで育たなければなりません。まさに今が、皆さんの前に救いの門が開かれた時です。もっと素晴らしい天国に入る機会が与えられた時です。

「イザヤ55:6」に「主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。」とあるとおり、今、与えられた機会を十分に生かして、熱心に天国を攻めて行かれますよう、主の御名で祝福して祈ります。



キリストの誕生！ 喜ぶ人々に天の平和があふれる！

2008年12月19日、20日、京都府舞鶴市にある舞鶴万民教会は、舞鶴市の老人保健施設「アザレア」と養護施設「舞鶴双葉寮」を訪問してクリスマスの喜びを分かち合い、さびしくて疎外された人々にもイエス・キリストの愛を伝える機会となった。今回の訪問公演では、舞鶴万民教会の聖歌隊と女性宣教会の会員たちが1カ月前から祈りをもってクリスマスソング、聖歌と紙芝居、そしてお菓子和プレゼントなどを準備して両施設を訪問、慰安公演を披露した。

「双葉寮」は、小学生から高校生の生徒約70人が生活している養護施設である。生徒たちは一緒に賛美を歌ったり笑ったり、嬉しい笑顔でクリスマスの喜びを楽しみ姿であった。紙芝居を通してイエス様のご誕生の話を真剣に聞き入っている姿も印象的であった。「双葉寮」の生徒たちはとても明るく元気であった。その中で大勢の人が教会の訪問に喜び、「機会があれば教会に行きたい」と答えて、好評を得た。公演が終わった後、寮長の仙田修二氏はお礼の言葉を述べられた。生徒たちも「来年も来てほしい」と言ってくれて、喜びに満ちて公演チームは帰途についた。

12月13日と23日には、大阪万民教会と舞鶴万民教会の聖誕祝賀礼拝を行った。今回の聖誕祝賀礼拝は例年より多くの人が参加し、教会のリバイバルを感じさせる希望の礼拝となった。特に23日の舞鶴万民教会の聖誕祝賀の時、雨の天気予報で夜明けから雨が降り続いてきたが、礼拝の前から雨雲が退き、春のように暖かく綺麗な青空が現れた。キム・マルコ牧師が「平和の君」というメッセージで、私たちに真の平安と平和を与えるためにこの世にいられたイエス・キリストを伝えた。礼拝が終わった後、交わり会では女性宣教会が準備した食事とプレゼント交換を通して、参加者たちとキリストの愛を分かち合う時間となった。



54か国アフリカ宣

教会創立8周年を迎えたケニアのナイロビ万民教会



海外からの手紙

ソウルでの祈り、同じ時間にイスラエルに働く

終わりの時、神の力を全世界に現している堂会長先生の働きと献身に感謝いたします。私は先生の自叙伝「私の人生、私の信仰」第1、2巻をペブライ語に翻訳しているリナ・ダバハです。私たち夫婦はこの本を翻訳しながら、大いに祝福されました。10月10日(金)午後2時半頃、息子のリサニアス(生後16か月)はひどい熱を出し、痲癇を起こして気を失いました。夫は急いで息子を病院に連れて行きました。私は、先生の自叙伝に記されているすべてのいやしと奇跡の働きを信じていたので、先生の祈りで神様がいやしてくださるだろうと信じました。急いでソウルの万民中央教会に祈りの課題を送って、インターネット生放送で金曜夜礼拝をささげました。こちらの時間で午後5時20分頃(韓国の時間で夜11時20分頃)、イ・ジェロク先生が息子のために祈ってくださいました。私は切なる心で息子の写真の上に手を置いて、祈りを受けました。その時、リサニアスは意識が戻って、話をしたり、ご飯を食べたりし始めました。しかし、高熱は続き、40度まで上がりました。小さい子どもが病気になるのは親の過ちだと悟った私たち夫婦は、過去を顧みて悔い改めました。そして夜9時40分頃(韓国の時間で夜3時40分頃)、金曜夜礼拝が終わる頃、先生がもう一度祈ってくださいました。その時、息子の体温が急に下がり、すぐ痛みがなくなって眠りにつきました。病室にエアコンが入っていたのに、息子の頭は汗まみれでした。そして安らかに10時間眠りました。翌朝、息子は何もなかったように起きて、笑ったり走ったり、よく食べて遊びました。それまでこんなに生き生きした姿を見たことがありませんでした。病院の検査の結果、何の異常もありませんでした。いやしてくださった神様に感謝します。祈ってくださったイ・ジェロク先生にも感謝します。2008.10.16. スハイル・ダバハ牧師、妻リナ・ダバハ